

はじめに

ここに近年の調査で発見された一冊の画帖がある。タイトルはないが、仮に《パリ画帖》と名付けてみよう。

最初の頁には「若狭丸同乗者小影」とある。そこに描かれているのは一九人の顔。かたわらには名前が添えられている。どうやら集合写真のように描き分けられているらしい。中央にいる白い背広にひげ面の紳士の横には「中澤」とある。京都帝国大学教授中澤岩太だ。

そして、この画帖の最後には、達者な墨書でこの画帖がつくられた経緯が記されている。それによると、これは、明治三三年（一九〇〇）八月一日に神戸港を出てパリに向かう若狭丸の船中に乗り合わせた人たちの画像である。冒頭の頁に続けて台湾海からマルセイユにいたる船窓の風景が描かれる。たぐみな水彩で描いたのは小山正太郎。この画帖は中澤岩太に捧げたものようだ。

一ヶ月半におよぶ船旅とともにした中澤と小山は、ともに東京で活動をしていたため、旧知の仲であったかもしれない。あるいは、このときがはじめての出会いであったかもしれない。いずれにしても、船中でお互いのことを語り合った可能性は高い。

中澤については本書でしばしば言及するので、ここでは小山のキャリアをみてみよう。



図1 小山正太郎《パリ画帖(若狭丸同乗者小影)》

小山正太郎は、明治九年に開校した工部美術学校に入学し、イタリヤ人画家フォンタネージに油彩画（洋画）を学んだ。同級生のひとりが浅井忠である。その後、小山と浅井はともに工部美術学校を退学し、十一会を結成し油彩画の研鑽を続ける。明治二〇年に画塾不同舎を結成し、二人で技術指導をおこなう。東京美術学校が洋画科をもたずに日本画科と木彫、工芸でスタートした明治二二年には、彼らが中心となつて在野の洋画研究団体である明治美術会を結成している。つまり、二人は日本の初期油彩画を支えた盟友といつてもよい。小山正太郎が、中澤と若狭丸に同船してパリに向かうあいだ、浅井のことを話さなかつたとは思えない。まして、浅井は、中澤たちよりも数ヶ月早く二月二八日に神奈川丸で神戸を発つて、四月一七日にパリに着いているのだから。

京都高等工芸学校の初代校長中澤若太と同校図案科初代教授である浅井忠は、開校した明治三五年の秋から浅井が亡くなる明治四〇年の一月まで、多くの時間をともに過ごしている。彼らは、京都高等工芸学校だけでなく、関西美術院や遊陶園、京漆園という在野の団体でも活動をもにし、さらに敦賀や琵琶湖へ小旅行に行っている。明治四〇年の秋には、ともに第一回文部省美術展覧会の審査員に選ばれている。

この濃密な五年間をともに過ごした二人の出会いは一九〇〇年の冬のバリである。浅井に対する追悼の意を込めて明治四一年に出版された『黙語図案集』冒頭の「故浅井教授と図案」のなかで、中澤は浅井とバリで会つて、高等工芸学校の教授になることを要請したとしてい

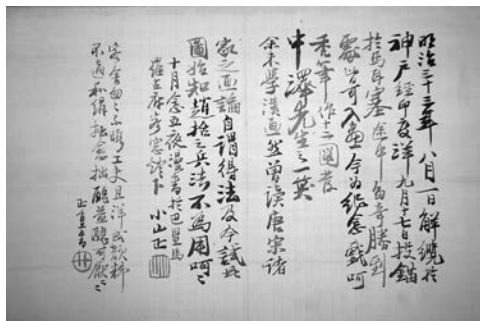


図2 小山正太郎《バリ画帖(奥書)》

る。さらに、明治三四年から東京美術学校の校長をつとめた正木直彦による『回顧七十年』には、中澤が正木に「高等工芸の西洋画の教員を物色しているが適任者は無いか」と尋ねたので、浅井忠の話をしたところ、中澤が浅井に会って要請をしたと記されている。たしかに、公式に中澤に浅井を引き合わせたのは正木であったかもしれない。また、浅井が東京美術学校から京都高等工芸学校へ転出するにあたって、校長であった正木が尽力したことは想像に難くない。しかし、この《パリ画帖》をあらためてみてみると、中澤と浅井の出会いにはもう少し別な側面があった可能性がみえてくる。

従来であれば、新しい工芸教育のための学校をつくろうという意欲に燃えてパリを訪れていた中澤と、アール・ヌーヴオー全盛のパリを目の当たりにして凶案の重要性に目覚めた浅井とが意気投合して、二人で手を携えて新しい凶案教育への舵を取るといふドラマティックなエピソードが語られてきた。アール・ヌーヴオーに高揚するパリのムードを考えれば、新しいドラマの幕開けとしての象徴的なエピソードだ。しかし、化学者とはいえ、中澤が東京時代からすでに美術工芸に深い関心を抱き、各種の展覧会の審査をおこなっていたことを考えると、明治美術会の中心人物であった浅井のことを、一九〇〇年にパリで紹介される以前にすでに知っていた可能性はある。さらに、この《パリ画帖》が出現し、中澤と浅井のあいだに小山正太郎というピースを入れることにより、二人の出会いが、もしかすると中澤が積極的に仕か

けたものだったとも思えてくる。つまり、中澤は、早い時期から高等工芸学校の基礎教育に写生を加えようと考えて、そのための人材を探しているときに、船中で小山と浅井の話になり、その時点で浅井に白羽の矢を立てたとも考えられるのだ。少なくとも、京都高等工芸学校では、浅井が西洋画を教えた形跡はみられない。浅井は、図案制作の基礎となる絵画実習として水彩画を教えていたが、その基本はまずは「写生」であった。中澤が浅井に求めたのは、純粹な油彩画の教育ではなく、対象を正確にとらえる技術の指導であった。正木の『回顧七十年』を鵜呑みにする必要はないだろう。

一方、フォンタネージ仕込みの写実的な油彩画を描いていた浅井は、すでに印象派の登場していたパリで、油彩画による写実に徐々に行き詰まりを感じていたと思われる。少なくとも、パリからの浅井の通信を読む限り、日本人の描く「写実」を追求した油彩画に限界を感じているようだ。そのことをすでに小山は浅井から聞いていたのかもしれない。浅井が、パリで、独自の形態感覚を發揮する『光琳百図』（酒井抱一編）へ接近することもそれを裏付けているだろう。

つまり、中澤は、浅井の写実的な再現能力を図案にいかそうと考える浅井への接近をはかり、一方の浅井は、写実を越えた新しい表現の可能性を図案に求めて、中澤の申し出に応じたというのが真相かもしれない。そして、この接近を無意識にかもしれないがアシストしたのが小山であったのではないだろうか。



図3 浅井忠《武士山狩図(人物)》

小山は、帰国後すぐの明治三六年に京都を訪れ、パリで同時期を過ごした中澤や浅井、池邊義家らと会っている。パリ時代を懐かしんだ再会であったのだろう。もしかすると、中澤がパリで買って来たパリ万国博覧会の会場を写したガラススライドの上映会をしたかもしれないが、新しい表現としての図案について語る場であったのかもしれない。

ここでは中澤岩太というひとりの人物を例にあげただけだが、中澤岩太と浅井忠とのあいだに小山正太郎というピースを入れることにより、新しい地平がみえてくる。

さらに、たとえば、工部美術学校、十一会、明治美術会で浅井や小山と行動をともにした油彩画家に松岡寿がいる。のちに東京高等工芸学校の初代校長になる松岡は、中澤の肖像画（個人蔵）を描いている。中澤の肖像画としては浅井によるもの（京都工芸繊維大学蔵）がひろく知られているが、松岡寿の手になる肖像画も存在するということは、これらのネットワークのなかに、松岡を加えることもできるのかもしれない。さらには、浅井にデッサンを学び、明治三年に浅井に先駆けてパリに行き、浅井到着時にはみずからの住むアパートマンを浅井に紹介している彫刻家の新海竹太郎は、中澤の肖像彫刻を少なくとも二体制作している。

これらは一例に過ぎないが、本書では、美術工芸の作品や制作者の周辺に張りめぐらされているこのようなネットワークに注目してみたい。

商業ベースに乗った「製品」が大量につくられるようになる前段階



図4 1900年パリ万国博情景「記念門」

では、美術工芸品の制作の前提には、需要があり、発注がある。また、制作にあたっては、教育・指導・協力などがあり、つくられたものは、流通、購入、贈呈、鑑賞、批評され、使用される。それらのさまざまな局面にかかわるヒトやモノやコトをできるだけ明らかにしたいというのが本書の目的である。とくに、ここでは、「近代京都」という時空を共有する「注文主(発注者)―制作者―鑑賞者(受容者)―」たちのネットワークを考えてみたい。

近代京都という枠組みは、見方によってはかなり「狭い」もののようにみえるかもしれない。日本という国の歴史をどうみるかはともかく、近代とは明治維新以降の、大方は戦前までの一〇〇年ほどでしかない。しかも、京都という限定された土地における近代である。しかし、近代における京都は、他の都市、地域にはない特徴をもっている。明治時代になると、開国・廃藩置県・内国勸業博覧会など、それまでとは違う意味で、人びとは「京都」を意識することになる。その理由は、ひとつは京都の伝統の重みであり、もうひとつは天皇の東幸による空洞化への恐れである。江戸時代になって江戸に幕府が成立したとはいえ、京都が文化的に先進地域であったことはいうまでもない。少なくとも、美術工芸品に関しては洗練されたものが多くつくられていた。しかし、前近代に積み上げられてきたものが大きければ大きいほど、産業革命や外国文化流入への対応という「近代化」の壁も大きかった。漆器などがよい例であるが、前代に比べて粗悪である、ある

いは旧態依然として前代と変わらないという言い方で比較をされ、ときに非難されることになる。また、旧都という立ち位置は、おのずから新都＝東京と対比される宿命にあった。

本書では、だからこそ、近代の京都に焦点を絞って考えてみたい。そして、近代京都の美術工芸の実態を明らかにするために必要な作業こそが、美術工芸品をめぐるネットワークを掘り起こすことだ。

ネットワークで考えることの効用のひとつ目は、人物同士、モノ同士の関係性をひもどくことにより、新しい動きがみえてくる点である。美術工芸の歴史を俯瞰的にみる作業は、全国区で考えると、どうしてもビッグネーム中心になってしまう。星座を例にとれば、すべての星が同じような明るさで光っているわけではない。浅井忠を一等星とすれば、その周辺に多くの人たちが集まってネットワークを構成している。それが、あるときは関西美術院という星座を形成し、あるときは京漆園という星座を構成するのだ。そして、ネットワークは、異分野、異業種との交流や海外との接触などにより、時々刻々と変容している。多くの場合、範囲が広がり、網目は、より複雑になってくる。新しい作品や資料の登場により、思わぬネットワークがみえてくることもある。先述の《バリ画帖》もそうであり、近年、京都工芸繊維大学美術工芸資料館で開催した武田周次郎についての展覧会なども、新しいピースの発見の一例である。このような作業を続けることにより、近代京都の美術工芸をめぐる様相は、よりはっきりと浮かび上がってく

るだろう。それが本書の目的である。

そして、このことの重要性は、近代の画期である終戦から七十年を経た今でこそまとめる必要があるという点だ。美術工芸のさまざまな現場に行くと、世代交代とそれにとまなう廃業や転業の話を目にすることが多い。聞き取りを含め、いま保存しないとこのまま失われてしまうものは計り知れないというのが現状だ。そのことも、本書をまとめた理由のひとつである。

二〇一二年に前書『京都 伝統工芸の近代』を刊行してから、ほぼ五年を経ている。この五年間にわたしたち執筆者は、「京都高等工芸学校と京都市立美術工芸学校の図案教育Ⅰ〜Ⅲ」「京都の墨流し染・糊流し染―その系譜と新たな可能性―」「中澤岩太博士の美術工芸物語―東京・巴里・京都―」といった展覧会を企画し、その過程であらたな資料や作品の存在、思いもつかない人物たちの交流を知ることになった。その成果は、『図案からデザインへ 近代京都の図案教育』（淡交社、二〇一六年）や、さらには、各々の論文や発表、展覧会のカタログなどで示してきた。本書は、それらのあらたな知見をもとに、近代京都の美術工芸についてあらためてまとめたものである。

編集には、前書同様に思文閣出版の大地亜希子さんのお世話になりました。著者一同、あらためて感謝の意を捧げたいと思います。ありがとうございました。

二〇一七年春

並木誠士



図6 『図案からデザインへ 近代京都の図案教育』(淡交社 2016年)



図5 『京都 伝統工芸の近代』(思文閣出版 2012年)

目次

はじめに

① 浅井忠

2

工部美術学校
アール・ヌーヴォー
関西美術院
水彩画
九雲堂

② 飯田新七(四代)

14

高島屋
百選会

③ 池邊義象

20

浅井忠と池邊義象
京都高等工芸学校教員の文人趣味

④ 稲畑勝太郎

26

化学染料
京都染工講習所
京都織物会社

⑤ 小川治兵衛(七代)

34

第四回内国勸業博覧会
無隣庵

38 36 32 30 28 24 22 18 16 12 10 8 6 4

⑩

黒田天外

78

『日出新聞』
『京都美術協会雑誌』
『ほととぎす』
『方寸』

86 84 82 80

⑨

錦光山宗兵衛(七代)

66

京薩摩
大日本窯業協会
栗田焼
遊陶園
美工商社

76 74 72 70 68

⑧

河原徳立

60

瓢池園
京都瓢池園

64 62

⑦

川島甚兵衛(二代)

50

川島織物
京都美術協会
武士山狩図
祇園祭

58 56 54 52

⑥

神坂雪佳

40

琳派
図案集
競美会
図案科

48 46 44 42

15

武田五一

126

『表現派図案集』

マルホフ式

古社寺保存

セセツシヨン

近代建築

136

134

132

130

128

14

竹内栖鳳

114

京都市立美術工芸学校・京都市立絵画専門学校
文部省美術展覧会(文展)

日本画

竹杖会

後素協会

124

122

120

118

116

13

杉林古香

106

京漆園

小美術会

『小美術』

112

110

108

12

幸野樗嶺

96

円山・四条派

京都青年絵画研究会

如雲社

京都府画学校

104

102

100

98

11

高坂三之助

88

図案団体

京都図案会

京都図案協会・晨虹会

94

92

90

20

鶴巻鶴一

176

墨流し
美術刺繍
道楽園と真美会
藤纈

19

土田杏村

166

美術史学
京都の美術館・博物館
無名会
国画創作協会

18

田村宗立

158

西宗
洋画
関西美術会

17

伊達弥助(四世)

148

西陣織
帝室技芸員
ウィーン万国博覧会
京都博覧会

16

龍村平藏(初代)

138

織物美術
時代祭
古代裂・名物裂の復元
織寶会

184 182 180 178 174 172 170 168 164 162 160 156 154 152 150 146 144 142 140

<p>②5</p> <p>西村總左衛門（二三代）</p> <p>226</p> <hr/> <p>千切屋（千總） ビロイド友禪 友禪協会</p>	<p>②4</p> <p>西川一草亭</p> <p>216</p> <hr/> <p>『瓶史』 挿花芸術 西川一草亭と浅井忠 京都における琳派顕彰</p>	<p>②3</p> <p>中村弥二郎</p> <p>206</p> <hr/> <p>美術出版 ガラススライド（幻燈） 京都における写真の普及 法隆寺金堂壁画複製制作</p>	<p>②2</p> <p>中澤岩太</p> <p>192</p> <hr/> <p>購入資料・図案模写 農商務省図案及応用作品展覧会（農展） 図案 京都高等工芸学校 一九〇〇年パリ万国博覧会 内国勸業博覧会</p>	<p>②1</p> <p>富岡鉄斎</p> <p>186</p> <hr/> <p>南画（文人画） 日本南画協会</p>
<p>232 230 228</p>	<p>224 222 220 218</p>	<p>214 212 210 208</p>	<p>204 202 200 198 196 194</p>	<p>190 188</p>

<p>文献一覧 関連年表 凶版一覧 索引 執筆者一覧</p>	<p>③⑦ ゴットフリート・ワグネル 264</p> <hr/> <p>七宝 釉下彩 化学用陶磁器</p>	<p>②⑨ 藤江永孝 256</p> <hr/> <p>音羽焼 松風陶器合資会社 京都市陶磁器試験所</p>	<p>②⑧ 廣瀬治助 248</p> <hr/> <p>写し友禅 ローラー捺染（機械捺染） 染殿</p>	<p>②⑦ 丹羽圭介 240</p> <hr/> <p>京都陶器会社 商品陳列所 輸出工芸</p>	<p>②⑥ 西村彦兵衛（八代） 234</p> <hr/> <p>京漆器 五二会</p>
	270 268 266	262 260 258	254 252 250	246 244 242	238 236

京都染工講習所

きょうとせんこうしゅうじよ

明治一四年（一八八一）、京都府の政策方針の転換によって化学染料による染色技術の指導機関であった染殿が廃止され、稚拙な化学染料による染色技術で染められた粗悪品が年々増加していく状況は、京都の染色業界にとって深刻な問題であった。おりしも、化学染料に関する知識と技術をきわめ帰国した稲畑勝太郎が京都府御用掛を命ぜられ勸業課に勤務する。稲畑は、勸業課長板原直吉に進言し京都染工講習所設立に向けて動きはじめた。

一方、京都の染色業者は、紅屋仲間、紺屋仲間といったように業種ごとに仲間組織を形成していたが、明治一八年にはじめて業種別同業組合が組織され、一九の組合が設立された。そして、そのうちの有志組合を統合して「京都染業取締所」を設立し、連合会として連携しながら業界全体の発展に向かって動き出すこととなった。

その頃、政府の染色業界振興策として、全国の機業地で染色技術の研究会が集談会と称して開催され、染色講習所の設立が展開していたこともあって、明治一九年、紅染業の馬淵喜兵衛が発起人となって「第一回染物業集談会」が開催される。この集まりのなかで、染色学校を設立し、技術者を育成することも急務の課題であることが確認された。これをうけて、茶染業の石田喜兵衛、吉本平兵衛、木村勘兵衛、



図2 京都市染織学校（大正4年頃）



図1 京都染工講習所

練物業の金山藤兵衛、手描友禪業の二代田畑喜八などが染色学校設立のために奔走した。こうして明治一九年九月に京都府の認可が下り、一月には、油小路下立売上ル近衛町の紅屋の跡地に設立された「京都染工講習所」の開所式がとりおこなわれた。なお、明治二〇年六月には下京区新町蛸薬師下ル百足屋町へ、同年一月には、上京区西洞院竹屋町上ル田中町へと移転する。

授業は、学理と実習で構成され、学科は色染応用学・染色原理・染色原料の三科、開設当初の修業期間は一年半であったが、明治二〇年秋からは、修業期間三年の本科と修業期間一年の速成科となり、本科は染色技術の習得に必要な諸学科を教授する課程で、染色工・職工を基礎から養成することを目的とした。教授陣には三田、高松、稲畑が招かれ、最先端の染色技術教育がはじめられた。稲畑は学理を、高松と三田は実習を担当した。なお、稲畑、高松が京都織物会社の設立とともに講習所を去ったのちは三田が中心となって授業を続けた。

講習所の財政については、当初は京都府の援助費と染物組合員の寄付によって運営されていた。明治二四年には、京都府の援助が打ち切られ、京都市の助成を得ながら染織技術者の養成機関として存続する。そして明治二七年、染織産業の教育機関「京都市染織学校」として再出発することとなる。大正八年（一九一九）には「京都市立工業学校」、一四年には「京都市立第一工業学校」、昭和二三年（一九四八）には「京都市立洛陽工業高校」と改称した。

（青木）



図3 京都市染織学校実習室（大正4年頃）

▶【参考文献】13

きょうとおりものかいしゃ 京都織物会社

明治十九年（一八八六）、**稲畑勝太郎**は皇居造営の用務で上京した際、**渋沢栄一**を訪問し、織物の輸入削減、さらには外国へ輸出する織物を製造するために、最新の機械を設置した工場を建設することが必要であると陳述した。撚糸から染色、製織、精錬までの一貫作業ができる生産体制を整えた模範工場を織物業伝統の地京都に設立することに賛同した**渋沢**は、**北垣国道**知事を説得する一方で、**大倉喜八郎**、**益田孝**、**今村清之助**など東京の実業家に協力を求めた。

京都で知事が織物会社設立に向けて動きはじめ東京の実業家の支援が決まると、**田中源太郎**、**濱岡光哲**、**内貴甚三郎**など京都の実業家が動き出し、翌二〇年に京都織物会社が創設された。これに合わせ、河原町二条にあった織殿の土地・建物・機械設備一切が京都織物会社に払い下げられ、織殿の職工は従業員として採用され、河原町工場として操業することとなった。さらに**吉田村阿達**の京都府の牧畜場跡を本社工場敷地として払い下げを受けた。技師には、染物に**稲畑**と**高松長四郎**、撚糸に**今西直次郎**、織物に織殿長の立場にあった**近藤徳太郎**といった海外留学経験者が採用された。設立後まもなく**近藤**ほか数名の会社関係者は、欧米各国の織物業視察のために渡欧する。そのとき、現地で目にした織物工場の様子は、彼らが留学していた頃から一変し、

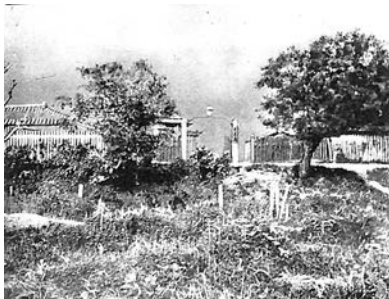


図2 明治5年創立京都牧畜場

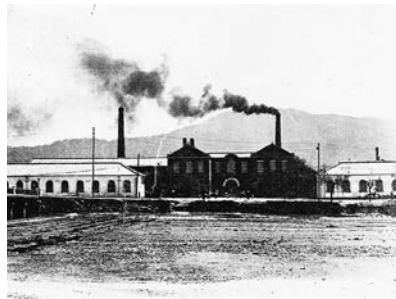


図1 京都織物会社（大正4年頃）

主力の織機は、手織機から蒸気式動力に代わっていた。

京都織物会社はこの渡航で最新の動力織機を購入し、新工場の建設は、近藤の帰国を待って着工した。すべての建設と機械の設置を終え、待望の開場式を迎えたのは、明治二三年のことであった。赤煉瓦造りの本社と二本の巨大な煙突をもつ工場、蒸気式動力の織機五五台、手織機八〇台、三〇〇〇錘擦糸機などを設置し、職工は三一〇名、開業式当日には皇后陛下の視察があり、式には六六二名の招待者が列席し、フランス式最新機械を導入した近代的民間企業の操業がはじまったのであった。

しかし、構想から四年、そのあいだに社会は大きく変化していた。鹿鳴館や皇居のような上流社会の洋風化が庶民の生活にまで浸透するであろうことを見込んで創設された京都織物会社であったが、社会は予想外の方向に向かう。過剰な欧化政策は国粹主義者の反発を招き、家屋の建築も、婦人の装いにおいても、欧風化の動きは一気に減速したのである。さりとて、ドレス生地や壁紙など欧風織物の製造に合わせて設置された機械類では、時代の求める西陣風の織物を製造することも難しい。京都織物会社は、本格的操業をはじめて早々に、営業不振の状態となり、明治二三年の株主総会で、近藤、稲畑、高松はその責任を追及され解雇されてしまう。明治二四年、京都の役員は総退陣し、かわって渋沢が経営一切を担当し、会社の整理縮小をもって立て直しをはかることとなった。

(青木)



図3 近藤徳太郎

小川治兵衛(七代)

1860-1933 / OGAWA, Jihei VII

○庭師 ○京都園芸業組合組長 ○京都園芸会会長
○宮内省御庭苑工事拜命 ○京都府立植物園協議員

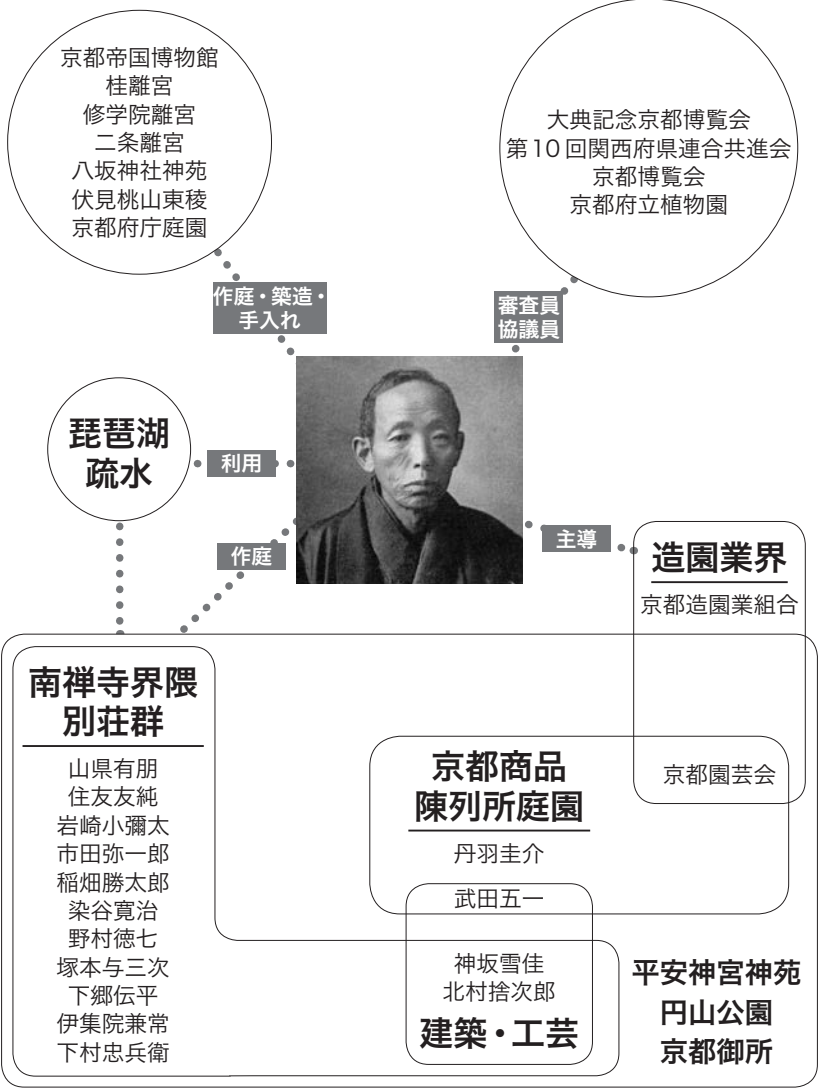
山城国乙訓郡新神足村(現・京都府長岡京市)生まれ。明治一〇年(一八七七)、京都で植木職を営む小川家に婿入りし、同一二年に七代小川治兵衛を襲名した。その職と名から「植治」とよばれる。明治中頃までの植治は法然院などに入入りはするものの庭師として突出する存在ではなかったが、明治二七年に着手された山県有朋の京都別邸・無隣庵(第三次)の庭園築造に携わったことが大きな転機となった。無隣庵の作庭に携わるなか、植治は岡崎の地で進められていた平安神宮神苑の作庭を委嘱され、続いて帝國京都博物館(現・京都国立博物館)の庭園を手がける。こうした仕事を通じて名が知られるようになり、明治後期から昭和初期にかけて、京都はもとより各地で庭園をつぎつぎと任されるようになる。小川治兵衛がつくる庭園は近代日本の政財界の要人に愛され、住友友純、野村徳七、西園寺公望、岩崎小弥太なども彼の手による庭を営んだ。一方で、御所や離宮の修築など宮内省からも重用された。

小川治兵衛の作庭が集中し、量と質の双方において充実をみせるのが京都・南禅寺界限である。東山の風致と庭園に水を引くことができる豊富な水量の琵琶湖疏水の存在を背景に、実業家・塚本与三次が明治三〇年代後半から界限の土地を別荘・邸宅地として開発し、その作庭を小川治兵衛に託したことがこれを大きく促した。こうした邸宅には、稲畑勝太郎の和楽庵(現・何有荘)に洋館を設計した武田五一、野村徳七の碧雲荘で欄間の図案を描いた神坂雪佳など、京都の美術工芸界の牽引者たちも携わっており、彼らとは協働の関係にあったともいえる。

公共空間にも多くかかわり、京都では京都府庁庭園、円山公園改修などを手がけた。明治四二年には、小川治兵衛を筆頭とする京都園芸会が京都商品陳列所庭園(現・京都市美術館庭園)を完成させる。これは京都の模範的庭園として計画されたもので、京都の園芸産業の一端として同所刊行物を通じて内外に紹介された。園芸業界の指導者的役割も果たし、愛知県主催第一

○回関西府県連合共進会(明治四三年)などの博覧会で園芸部門の審査官をつとめた。(三宅)

ヒト・モノ・コトのネットワーク



並木誠士 (なみき せいし)*

東京都生。京都工芸繊維大学大学院工芸科学研究科教授。同大学美術工芸資料館長。おもな編著書に『図案からデザインへ 近代京都の図案教育』（共著、淡交社、2016年）、『京都 伝統工芸の近代』（共編著、思文閣出版、2012年）、『絵画の変—日本美術の絢爛たる開花—』（中央公論新社、2009年）、『美術館の可能性』（共著、学芸出版社、2006年）、『中世日本の物語と絵画』（共著、放送大学教育振興会、2004年）など。

山田由希代 (やまだ ゆきよ)

京都府生。京都府立堂本印象美術館主任学芸員。おもな論著に「堂本印象における絵画と工芸の関連性」（『美術京都』47号、2016年）、「堂本印象の画塾・東丘社に関する研究—近代京都における画塾の一側面—」（『鹿島美術研究』年報32号別冊、2015年）、「近代京都における絵画と織物工芸との関係—二代川島甚兵衛の企画力をめぐって—」（『美学』219号、2004年）など。

和田積希 (わだ つみき)

京都府生。京都工芸繊維大学美術工芸資料館特任助教。おもな論著に「産業系教材としてのガラススライド—京都高等工芸学校の購入資料から—」（『画像関連学会連合会第3回秋季大会 写真学会要旨集』2016年）、「フランツ・シュテットナー博士作成ガラススライドの意義について—京都工芸繊維大学美術工芸資料館所蔵資料を中心に—」（『デザイン理論』68号 2016年）、「新出の「野分文庫」について—浅井忠の図案とその作品化をめぐって—」（『MUSEUM 東京国立博物館研究誌』650号、2014年）など。

青木美保子 (あおき みほこ)*

山口県生。京都女子大学家政学部准教授。おもな論著に「1960年代 日本におけるオートクチュールの受容—大丸百貨店と大丸ドレスメーカー女学院にかかわった磯村春の活動を手がかりに—」（『デザイン理論』No. 67、2015年）、「京都における染織工芸の近代化—古法「墨流し」の改良を中心に—」（『風俗史学』No. 53、2013年）、「大正・昭和初期の着物図案—松坂屋の標準図案を巡って—」（『風俗史学』No. 34、2007年）など。

三宅拓也 (みやけ たくや)

大阪府生。京都工芸繊維大学デザイン・建築学系助教。おもな著書等に『近代日本〈陳列所〉研究』（思文閣出版、2015年）、「明治・大正期の水戸・偕楽園と観梅列車：水戸における鉄道を利用した観光事業の成立と展開」（『観光研究』Vol. 28 No. 1, 2016年）、「『ベルギー』とは何か？ —アイデンティティの多層性—」（共著、松籟社、2013年）、など。おもな受賞歴に2016年度全日本博物館学会賞（2016年）、前田記念工学振興財団 山田一字賞（2016年）など。

岡達也 (おか たつや)

岡山県生。京都工芸繊維大学美術工芸資料館勤務。グラフィックデザイナーとしても活動中。おもな著書に『図案からデザインへ 近代京都の図案教育』（共著、淡文社、2016年）。おもな受賞歴にGraphic Design Festival Breda 2014 Poster Project Winner（オランダ 2014年）、第150回記念日図創作図案総合展グラフィック部門京都織物卸商業組合賞（2013年）など。

清水愛子 (しみず あいこ)

京都府生。広島市立大学非常勤講師。おもな論著に「清水焼団地 受け継がれるパイオニア精神」（『清水焼団地五十年の歩み』清水焼団地協同組合、2011年）、「神坂雪佳と競美会—近代京都の陶芸史の一考察—」（『デザイン理論』42号、2003年）、「工芸の近代化における建築の役割について—武田五一の図案指導（マルホフ式図案）をてがかりに—」（『建築史学』39号、2002年）など。

上田文 (うえだ あや)

京都府生。関西学院大学非常勤講師・同志社女子大学非常勤講師。おもな論著に「土田麥僊の人物画について—肖像性と象徴性をめぐる考察—」（『デザイン理論』62号、2013年）、「内島暁園について—近代京都画壇から見た画業—」（『鹿島美術研究』年報27号別冊、2010年）、「土田麥僊『平牀』と『妓生の家』について—近代日本美術における朝鮮の美をめぐって—」（『美学』233号、2008年）など。

索引

- * 人名のあとには（ ）で生没年を示した。ただし、生没年不詳の場合は付していない。
 * 見出しでとりあげる人名・事項およびその見出しを立てた頁はゴシック体で表記した。
 * 西歐人名表記は原則姓、名としたが、慣例的表記はそのままとした。

【人名】

あ	
赤澤鉞太郎 (1899~1989)	181
明石染人 (1887~1959)	25, 178, 181, 250
明石博高 (1839~1910)	210, 250
赤松祐以 (1825~1911)	78
芥川龍之介 (1892~1927)	138, 140, 141
浅井修吉	93
浅井忠 (1856~1907)	2 ~13, 20, 22 ~25, 40, 43, 49, 50, 53, 56, 57, 60, 65, 74, 81, 84~87, 106, 108~113, 124, 126, 158, 161, 163, 176, 192, 196, 197, 199, 201, 202, 211, 212, 214~ 216, 219~222, 237
浅井柳塘 (1841~1907)	190
飛鳥井孝太郎 (1867~1927)	264
東太三郎	232
足立源一郎 (1889~1973)	9
渥美新一郎 (1885~1928)	181
荒井寛方 (1878~1945)	209
新井謹也 (1884~1966)	8, 165, 169
新井昌夫 (1889~1912)	13
荒木小平 (1843~?)	151

い

飯田新七(初代) (1803~1874)	14
飯田新七(二代) (1827~1878)	14, 16
飯田新七(三代) (1853~1909)	14, 16, 98, 231, 232
飯田新七(四代) (1859~1944)	14 ~19, 50, 54, 78, 138, 179, 182, 196, 212, 232, 239, 240, 244
飯田新兵衛	138
飯田忠三郎 (1863~1928)	138
猪飼嘯谷 (1881~1939)	92, 109, 143
池田雲樵 (1825~1886)	103, 189
池田桂仙 (1863~1931)	103, 190
池田清助	54, 239
池田有蔵 (1864~1930)	94
池田遙邨 (1895~1988)	119
池邊義象 (1861~1923)	12, 20 ~25, 111, 123, 196, 221
石井柏亭 (1882~1958)	57, 86, 87
石川光明 (1852~1913)	152
石崎蘆流	223
石田喜兵衛	30
磯田多佳 (1879~1945)	12, 13, 20
板原直吉	30
市田弥一郎 (1843~1906)	39
伊東貞文	106
伊藤山香	88, 95
伊藤若冲 (1716~1800)	59
伊東忠太 (1867~1954)	36, 128, 132
伊藤陶山(初代) (1846~1920)	46, 73, 74, 201, 239

伊藤陶山(二代) (1871~1937)	72
伊藤快彦 (1867~1942)	
8, 9, 57, 111, 158, 161~164	
稲畑勝太郎 (1862~1949)	26~34, 39
井上伊兵衛 (1821~1881)	
26, 138, 148~151	
井上悌藏	8
井上徳三郎 (1867~1936)	76
今泉雄作 (1850~1931)	190
今尾景年 (1845~1924)	14, 16, 17,
18, 53, 116, 124, 148, 153, 182, 196,	
229, 231, 232	
今西直次郎	26, 32
今村清之助 (1849~1902)	32
今村藤治郎	88
入江道仙(二代) (幕末~明治)	
264, 267	
入江道仙(三代) (1868~1946)	267
入江波光 (1887~1948)	
119, 123, 170, 171, 173, 209	
岩垣月洲 (1807~1873)	186
岩垣雄次郎	164
岩倉山吉兵衛	72
岩佐有彩	95
岩村眞次郎(光真) (1885~1945)	112
印藤真楯 (1861~1914)	4

う

ヴァスマート, アーンスト	
(1845~1897?)	203
ヴァン・デ・ヴェルデ, アンリ	
(1863~1957)	7, 213
植治 →小川治兵衛(七代)	
上田重子	12
植田豊橋 (1860~1948)	70, 180, 264
上田敏 (1874~1916)	123, 170
上野伊三郎 (1892~1972)	131
上野俊之丞 (1790~1851)	210
上野清江	92
上野彦馬 (1838~1904)	211

上野リチ(リックス, F.)	
(1893~1967)	131
植実宗三郎	205
上村松園 (1875~1949)	
119, 125, 153, 181	
ヴェルヌイユ, モーリス・ピラール	
(1869~1942)	203
ヴォーリーズ, ウィリアム・メレル	
(1880~1964)	129
鶴飼玉川 (1807~1887)	211
歌原重三郎	26
打越晴亭	223
内田九一 (1844~1875)	211
宇都宮誠太郎	126, 136, 137, 205
内海吉堂 (1850~1925)	18, 103, 190
宇野仁松 (1864~1937)	212
馬澄文洲	95
梅原龍三郎 (1888~1986)	
8, 9, 121, 153, 161, 168, 171	
雲林院寶山	72

え

永樂善五郎	223
永樂和全 (1884~1979)	264
江馬務 (1884~1979)	136, 143
江馬天江 (1825~1901)	96

お

大木平蔵	111
大倉喜八郎 (1837~1928)	32
大沢芳太郎	164
大下藤次郎 (1870~1911)	11
大角南耕	186
大田垣蓮月 (1791~1875)	186
太田喜二郎 (1883~1951)	163, 165
大谷光演(句仏上人)	
(1875~1943)	114
大谷光勝 (1817~1894)	96, 114
大塚知三	8
大津玉香	91

大友紫耀	88
大林翠香	93, 95
大道雷淵(和一)	111
大村西崖(1868~1927)	83, 140
岡倉天心(1863~1913)	53, 82, 105, 108, 116, 120, 125, 132, 172, 174
小笠原長幹(1885~1935)	146
小笠原豊涯(1871~?)	92
岡島卯三郎	232
岡島千代造(1853~1921)	26
尾形乾山(1663~1743)	110
尾形光琳(1658~1716)	7, 42, 43, 110, 218~220, 223
岡田三郎助(1869~1939)	22, 165
岡田紫郊	92, 109
岡田朴亭	108
岡田良平(1864~1934)	198
岡本橋仙(1868?~?)	111
岡本豊彦(1773~1845)	105
小川一真(1860~1929)	152, 210, 215
小川治兵衛(七代) (1860~1933)	34~39, 243, 244
小川純一	205
小川千甕(1882~1971)	8, 13
奥田天門	190
奥村延治郎	179
奥村林暁	146
尾島僊路	88, 91, 95
小田海僊(1785~1862)	186, 188
落合万水	95
小野竹喬(1889~1979)	105, 119, 121, 123, 125, 166, 168~171
オルタ, ヴィクトール(1861~1947)	7, 213
オルブリッヒ, ヨゼフ・マリア (1867~1908)	130
か	
海外天年(1860~?)	94
梶常吉(1803~1883)	270

春日潜庵(1811~1878)	186
片岡安(1876~1946)	126
片山東熊(1854~1917)	56, 128, 175
カッペレッティ(?~1887)	4
加藤源之助(1880~1946)	8, 11, 165
加藤友太郎(1851~1916)	269
金山藤兵衛	30
金子静枝(錦二)(1851~1909)	80, 81, 112, 113, 182
金子九平次(1895~1968)	171
金子堅太郎(1853~1942)	92
狩野友信(1843~1912)	25, 192
加納夏雄(1828~1898)	152
狩野芳崖(1828~1888)	50, 53, 120
鹿子木孟郎(1874~1941)	8, 9, 110, 112, 183, 196, 199
神坂松濤(1882~1954)	8
神坂雪佳(1866~1942)	18, 34, 40~49, 53, 59, 60, 66, 74, 80, 82, 94, 106, 111, 112, 122, 140, 161, 201, 205, 214, 218, 219, 237
神坂祐吉(1886~1938)	40
亀井光三郎	185
亀谷徳次郎	210
河井寛次郎(1890~1966)	165
河合新蔵(1867~1936)	9
河合惣之助	232
川上冬崖(1828~1881)	4, 160
川島甚兵衛(初代)(1819~?)	50, 52
川島甚兵衛(二代)(1853~1910)	50~59, 54, 153, 240, 242
川島利一郎(1886~1971)	171
川之辺一朝(1831~1910)	106
川端玉章(1842~1913)	50, 105
川端弥之助(1893~1981)	165
河原徳立(1844~1914)	60~65, 70, 74
川村文芽	92
川村華亭	95
河村虹外(1861~1932)	190

河村蜻山 (1890~1967) 46, 47, 74,
223, 259

き

菊池契月 (1879~1955) 125, 153

菊池左馬太郎(素空) (1879~1922)
20, 23~25, 112, 176, 199, 201

菊池芳文 (1862~1918) 8, 17, 18,
50, 53, 96, 103, 105, 116, 117, 122~
125, 229

岸光景 (1839~1922) 18, 40, 153, 218

岸竹堂 (1826~1897) 14, 16, 18, 78,
98, 100, 103, 119, 153, 182, 229, 231,
232

岸田日出刀 (1899~1966) 129

岸本景春 (1888~1975) 59

北垣国道 (1836~1916) 32, 54

北村鈴菜 (1875~1924) 92, 111

北村捨次郎 (1894~1985) 224

北村彌一郎 (1868~1926) 70, 261

木下逸雲 (1800~1866) 186

木下応受 (1777~1815) 105

金素雲 (1907~1981) 166

木村勘兵衛 (1814~1865) 30

木村天陽 88, 91, 95

木村藤吉 248

木村秀雄 (1872~1944) 46

木村表齋 (1818~1885) 236, 237, 243

清浦圭吾 (1850~1942) 138, 140, 146

清水六兵衛(四代) (1848~1920)
96, 269

清水六兵衛(五代) (1875~1959)
24, 46, 47, 74, 98, 135, 201, 256, 259,
262, 263

錦光山宗兵衛(六代) (1823~1884)
66, 68, 69, 72, 76, 242

錦光山宗兵衛(七代) (1867~1927)
46, 60, 66~77, 98, 114, 201, 240, 256,
258, 269

く

九条武子 (1887~1928) 221

楠部彌弼 (1897~1984) 72, 259

国井応文 (1833~1887)
98, 100, 103, 105

国井心陽 (?~1923) 16, 116

国沢新九郎 (1848~1877) 2, 4

国松桂溪 (1884~1962) 165

窪田雪鷹 (1795~1859) 186

久保田米僊 (1852~1906)
96, 98, 102, 103, 226

熊谷直行 (1843~1907) 190

久米桂一郎 (1866~1934) 165

グラッセ, ウージェーヌ
(1845~1917) 7, 203

クリムト, グスタフ (1862~1918)
130, 131

黒田重太郎 (1887~1970) 8, 9, 11,
13, 57, 121, 161, 162, 165, 169

黒田清輝 (1866~1924) 2, 13, 37,
56, 78, 146, 160, 164, 165, 195, 196

黒田天外 78~87, 106, 111, 211, 234

黒沼槐山 2, 25

桑田正三郎 (1855~1932) 211

け

源田徳太郎 232

こ

高坂三之助 (1865~1939) 88~95

迎田秋悦 (1881~1933) 46, 106, 112,
113, 201, 223, 237

幸田露伴 (1867~1947) 216, 225

河野秋邨 (1890~1987) 191

幸野樺嶺 (1844~1895) 18, 44, 48,
59, 96~105, 114, 116, 118~120, 153,
182, 226, 229

小島成治 199

呉春 (1752~1811)

100, 104, 105, 188, 220
 古城鴻一 181
 巨勢小石 (1843~1919) 98, 189, 226
 小瀬竹松 134
 五姓田芳柳 (1827~1892) 4
 五姓田義松 (1855~1915) 4, 160
 後藤龍光 92
 木島桜谷 (1877~1938) 124, 125, 216
 小山三造 (1860~1927)
 98, 158, 160, 162
 小山正太郎 (1857~1916) 2, 4, 5,
 11, 12, 22, 23, 84, 160, 196, 197
 近藤一真 88, 95
 近藤徳太郎 (1856~1913)
 26, 32, 33, 52
 近藤悠三 (1902~1985) 259
 コンドル, ジョサイア (1852~1920)
 128, 174, 194

さ

齋藤春邦 146
 齋藤与里 8, 161
 酒井抱一 (1761~1828)
 42, 43, 110, 218
 榊原一広 (1883~1941) 8, 161
 榊原紫峰 (1887~1971)
 119, 123, 166, 170, 171, 231
 榊原苔山 (1890~1963) 123
 榊原芦江 231
 坂本繁二郎 (1882~1969) 87
 桜井忠剛 (1867~1944)
 8, 158, 161, 164
 佐倉常七 (1835~1889)
 26, 138, 148~151
 佐々木倉太 88
 佐々木清七 (1844~1908)
 14, 148, 151, 231
 佐々木惣四郎 44
 佐藤友太郎 (1862~1940) 26, 246
 里見勝蔵 (1895~1981) 165

佐野常民 (1822~1902) 5, 148, 154
 澤田宗山 (1881~1963) 95, 201
 澤渡乾斎 92
 澤部清五郎 (1884~1964) 8, 9, 53,
 59, 165
 澤村専太郎 (1884~1930) 172
 三田忠兵衛 29, 31, 251

し

椎原兵市 (1884~1966) 126
 シェレ, ジュール (1836~1932) 7
 塩川文麟 (1801~1877)
 96, 100, 101, 105, 116
 重春塘 (1833~1904) 103, 190
 品川弥二郎 (1843~1900) 40, 50, 70
 司馬江漢 (1747~1818) 160
 芝千秋 8
 柴田新兵衛 44
 柴田是真 (1807~1891) 152
 渋沢栄一 (1840~1931) 32, 33
 島田雅喬 100
 島田多薫 88
 島津源蔵((初代)1839~1894/
 (二代)1869~1951) 212
 下岡蓮杖 (1823~1914) 211
 下郷伝平((初代)1843~1898/
 (二代)1872~1946) 39
 霜島正三郎 (1884~1982)
 49, 56, 57, 126, 165
 下村玉広 (1878~1926) 92, 95
 下村源蔵 98
 下村正太郎 (1927~2007) 179
 下村忠兵衛 39
 シュテットナー, フランツ
 (1870~1944/46) 213
 ジュリー, レオン (1822~1891)
 26, 52, 150
 紹美栄祐 (1839~1900) 239
 松風嘉定(三代) (1870~1928)
 74, 258, 260, 261, 269

新海竹太郎 (1868~1927)
20, 153, 196

す

菅橋彦 (1878~1963) 140
菅原教造 (1881~1967) 19
菅原百龍 (1833~1898) 189
杉浦非水 (1876~1965) 7
杉林古香 (1881~1913) 46, 47, 81,
85, **106**~113, 201, 214, 216, 219, 221,
237
杉本六三郎 230
鈴木紫陽 93, 95
鈴木松年 (1848~1918) 99, 119
鈴木瑞彦 (1848~1901) 40
鈴木百年 (1825~1891) 98~100, 103
鈴木文太郎 (1864~1921) 123
鈴木萬年 103
須田国太郎 (1891~1961)
9, 161, 165, 173
諏訪蘇山(初代) (1852~1922)
66, 223

せ

清風與平 (1803~1863)
78, 153, 196, 269
セギ, ユージーン・アラン 203
関口老雲 190
関野貞 (1868~1935) 132, 133

た

大雅堂清亮 (1807~1869) 158
大願 158
帯山与兵衛(八代) (?~1878)
68, 69, 72, 73
帯山与兵衛(九代) (1856~1922)
72, 73
タウト, ブルーノ (1880~1938)
129, 131
高井水石 222, 223

高久靄崖 (1796~1843) 189
高田鶴洲 92
高橋清山 74
高橋道八 (1881~1941) 54
高橋由一 (1828~1894) 4, 160
高浜虚子 (1874~1959) 13, 84
高松長四郎 26, 29, 31~33, 251
高村光雲 (1852~1934) 152
高村光太郎 (1883~1956) 168
高安月郊 (1869~1944)
111, 216, 220
高山源兵衛(初代耕山) 266
高山染堂(與三吉) 92
滝精一 (1873~1945) 172
滝野邦行 88
竹内栖鳳 (1864~1942) 8, 16~18,
59, 96, 102, 103, 105, **114**~125, 140,
153, 161, 165, 171, 182, 192, 196, 211,
229, 231
武田五一 (1872~1938) 2, 34, 37,
40, 49, 60, 74, 110, 112, **126**~137,
183, 192, 198, 199, 201, 205, 208, 212,
237, 240, 244
武田周次郎 255
田近竹邨 (1864~1922) 190
辰野金吾 (1854~1919) 126, 128, 129
龍村平藏(初代) (1876~1962)
138~147
龍村平藏(二代) 145
伊達弥助(四世) (1813~1876)
14, **148**~157, 242
伊達弥助(五世) (1839~1892)
148, 152, 153, 231
田中一華 (1864~1924) 16, 18, 103
田中喜作 (1885~1945)
9, 125, 166, 168~170, 173
田中源太郎 (1853~1922) 32
田中善之助 (1889~1946)
13, 57, 121, 165, 169
田中治兵衛 94

田中豊蔵 (1881~1948) 168
 田中利七 (1846~?) 76, 182
 谷鐵臣 (1822~1905) 96, 103
 谷文晁 (1763~1840) 189
 谷口藹山 (1817~1899) 99, 103, 189
 谷口香嶠 (1864~1915) 18, 46, 48,
 53, 59, 75, 82, 96, 108~112, 116, 122,
 123, 138, 148, 201
 田能村竹田 (1777~1835) 188, 189
 田能村直入 (1814~1907)
 78, 98, 103, 189, 190, 226
 田畑喜八(二代) 31
 田村春暁 93, 95
田村宗立 (1846~1918)
 8, 50, 98, 121, **158**~165, 211
 俵屋宗達 42, 218
 丹下健三 (1913~2005) 129
 丹山青海 (1813~1886) 69, 73
 丹山陸郎 (1853~1897)
 69, 73, 155, 264

 ち
 千切屋總三右衛門 228
 千切屋与三右衛門 228
 千種掃雲 (1873~1944) 8, 168
 千草安兵衛 26

 つ
 塚本靖 (1869~1937) 126
 塚本与三次 34
 都路華香 (1870~1931)
 16, 18, 96, 117, 229, 231, 233
 辻松喬 109
 辻礼輔 210
 津田青楓 (1880~1978) 9, 106, 108~
 111, 168, 169, 214, 216, 220, 223,
 224
 土田英林 114, 118
土田杏村 (1891~1934) **166**~175
 土田麥僊 (1887~1936) 105, 119,

121, 123, 125, 166, 168~171, 173, 231
 土田友湖 216, 224
 妻木頼黄 (1859~1916) 126
鶴巻鶴一 (1873~1942) 20, 24, 25,
 112, 124, **176**~185, 192, 198, 201,
 205, 240

て

ティファニー, ルイス・コンフォート
 (1848~1933) 7
 手島精一 (1850~1918) 198, 204, 205
 寺岡順峯 88
 寺崎廣業 (1866~1919) 114

と

土居次義 (1906~1991) 173
 ツールーズ=ロートレック, アンリ・ド
 (1864~1901) 7
 東畑謙三 (1902~1998) 126
 堂本印象 (1891~1975) 123, 138, 153
 ドーム兄弟 (兄オーギュスト: 1853~
 1909 弟アントナン: 1864~1930) 7
 徳岡神泉 (1896~1972) 119, 123
 徳永鶴泉 168
 土佐光武 (1844~1916) 98
 土佐光文 (1813~1979) 100
 戸嶋光孚 (1882~1956)
 46, 106, 112, 234
 都島英喜 (1873~1943)
 8, 9, 24, 25, 57, 161, 183, 199, 216
 外波山栖光 88, 91, 95
富岡鉄斎 (1836~1924) 78, 103, 111,
 153, **186**~192, 216, 221, 224
 富田幸七 (1854~1910) 237
 富田直詮 245
 富田誠 46, 112
 富本憲吉 (1886~1963) 165, 171
 豊岡随資 (1814~1886) 100

な

内貴甚三郎 (1848~1926) 32, 98
 内貴清兵衛 (1878~1955) 98
 内藤湖南 (1866~1934) 191
 永井香圃 (1839~1911) 190
 中井宗太郎 (1879~1966) 19, 114,
 123, 125, 166, 168, 170, 171, 173
 長尾雨山 (1864~1942) 191
 中川四明 (1850~1917) 123, 168
 中川重麗 (1851~1917) 83
 中川浄益 223
 中川柏陰 190
中澤岩太 (1858~1943) 2, 9, 11, 13,
 18, 20, 23~25, 40, 48, 56, 60, 65, 66,
 70, 74, 75, 92, 112~114, 123, 124,
 126, 153, 161, 164, 165, 176, 178,
 180, 183, **192**~205, 212, 213, 221,
 237, 247, 256
 長沢芦雪 (1754~1799) 105
 中島来章 (1796~1871) 96, 100, 105
 永田大湖 95
 中西耕石 (1807~1884)
 96, 98, 100, 189
 中西米三郎 26
 中西真之助 232
 中西安次郎 232
 中林僊 (1878~1937) 8
 中原一紅 88
 中原哲泉 (1864~1942) 39, 271
 中村岳麓 (1890~1969) 209
 中村喜一郎 (1850~1915)
 28, 250, 251
 中村宗哲 223, 243
 中村不折 (1866~1943) 85, 86
中村弥二郎 (1873~1944) **206**~215
 中安信三郎 (1860~1932) 92, 94
 中山雅喬 88, 95
 中山岩太 (1895~1949) 211
 夏目漱石 (1867~1916) 10, 12, 20,

85, 196, 216, 220, 221, 225
 濤川惣助 (1847~1910) 271
 並河靖之 (1845~1927) 39, 50, 54,
 78, 98, 153, 196, 239, 243, 270, 271

に

新家孝正 (1857~1922) 38
 西川一葉 216
西川一草亭 (1878~1938) 25, 85,
 106, 108, 110, 111, 113, 214, **216**~225
 西田音松 232
 西田幾多郎 (1870~1945) 166
 西村五雲 (1877~1938) 17, 119
 西村治兵衛 (1861~1910) 54, 239
西村總左衛門(一二代) (1855~1935)
 50, 54, 78, 98, 182, 183, 196, **226**~
 233, 239
 西村總左衛門(一三代) 229
西村彦兵衛(八代) (1886~1965)
234~239
 西山翠嶂 (1879~1958)
 17, 119, 125, 153
丹羽圭介 (1856~1941) 18, **240**~247

の

納富介次郎 (1844~1918) 155, 264
 野口真造 (1844~1918) 138
 野口安左衛門 176, 180, 181
 野長瀬晚花 (1889~1964) 170, 171
 野々口隆正 (1793~1871) 186
 野村成之 82
 野村徳七 (1878~1945) 34, 39
 野村文夫 (1836~1891) 80

は

パーキン, ウィリアム・ヘンリー
 (1838~1907) 28
 萩原清彦 180, 183, 198, 199, 201
 箸尾清 (1888~?) 176, 180, 183
 橋口五葉 (1881~1921) 7, 85

橋本雅邦 (1835~1908)	152
橋本関雪 (1883~1945)	119
橋本明治 (1904~1991)	209
長谷川政七	151
長谷川路可 (1897~1967)	172
秦金石 (1855~?)	190
秦輝男 (1887~1945)	168, 169
羽田元三郎	138, 146
服部音次郎	88
濱岡光哲 (1853~1936)	32
早川久兵衛	248
早川忠七	148
林新助 (1869~?)	76
林田撫水	168
原在寛 (?~1957)	222, 223
原在泉 (1849~1916)	
	50, 54, 98, 103, 116, 148, 222
原熊太郎(撫松) (1866~1912)	163
原田直次郎 (1863~1899)	11

ひ

疋田敬蔵 (1851~?)	4, 163
菱田春草 (1874~1911)	120
日高鉄翁 (1791~1871)	186
日比忠彦 (1873~1921)	129, 244
日比野治三郎	185
平尾竹霞 (1856~1939)	190
平賀義美 (1857~1943)	198
平清水亮太郎	163
平野遠里	88
平野耕輔 (1871~1947)	70, 263, 264
廣岡伊兵衛	180
廣瀬治助 (1822~1890)	248~255
広瀬満正 (1859~1914)	60, 64
ピング, サミュエル (1838~1905)	
	6, 7, 12

ふ

フール, ジョルジュ・ド (1868~1943)	6
-----------------------------	---

ブエ, アルベール	12
フェノロサ, アーネスト・フランシスコ (1853~1908)	5, 53, 96, 102, 103, 114, 118, 120, 188
フォンタネージ, アントニオ (1818~1882)	2, 4, 5, 53
福井松雄	199
福岡玉僂	95
福沢諭吉 (1835~1901)	194
福田直一	180
福田平八郎 (1892~1974)	119, 123
福田良華	88
福地復一(天香) (1862~1909)	
	12, 18, 20, 22, 92
福永俊吉 (1904~2006)	49
藤井桂空	168
藤井徳三郎	230
藤井培屋	111, 216, 220
藤井孫兵衛 (1875~1876)	94
藤江永孝 (1865~1915)	60, 65, 66, 70, 74, 75, 112, 201, 256~264
藤島武二 (1867~1943)	7, 165
藤谷伊兵衛	44
布施詰詮 (1887~1940)	49, 88
古市卯之助 (1874頃~1933)	46
古谷紅麟 (1875~1910)	43, 45, 48, 49, 92, 112, 122, 201, 214, 218
古谷雪山	88, 95

へ

ベアト, フェリーチェ (1832~1909)	210
ベーカー, スミス	16
ペッヒエ, ダゴベルト (1887~1923)	137
ベルナルル, サラ (1844~1923)	
	22, 231

ほ

宝山文蔵 (1820~1889)	73
------------------	----

星野空外 (1888~1973)	123
ホフマン, ヨーゼフ (1870~1956)	130, 131, 134, 137
堀与兵衛 (1826~1880)	210, 211
堀内信重 (1841~1876)	210
堀江純吉	92, 93
堀川新三郎 (1851~1914)	26, 248, 254
堀口捨己 (1895~1984)	225
堀口大学 (1892~1981)	19
本阿弥光悦 (1558~1637)	42, 43, 218, 219, 223
本田吉兵衛	44
ま	
前田荷香 (1833~1905)	190
前田玉英	25, 192, 197
前田健二郎 (1892~1975)	175
前田暢堂 (1817~1878)	96
前田正名 (1850~1921)	238
前原利男	181
牧正二	146
牧野克次 (1864~1942)	8, 161, 164, 199, 201
牧野伸顕 (1861~1949)	124, 204
榎村正直 (1834~1996)	98, 210, 226, 240, 248, 250
正岡子規 (1867~1902)	84, 85
正木直彦 (1862~1940)	138, 140, 146, 196, 197, 225
真下飛泉 (1878~1926)	168
益田孝 (1848~1938)	32
股野琢 (1838~1921)	56
松岡寿 (1862~1944)	2, 4, 5, 204, 205
マッキントッシュ, チャールズ・レイ リー (1868~1928)	131
松田鹿三 (1884~1958)	245
松田緑山(二代玄々堂) (1837~1903)	158

松林桂月 (1876~1963)	189
松原三五郎 (1864~1946)	164
松宮芳年 (1886~1970)	123, 168
松村景文 (1779~1843)	100, 105, 188
松村月溪 →呉春	
松室重光 (1873~1937)	108, 122, 126, 129, 132, 133
松本硯生	164
松本亦太郎 (1865~1943)	123, 125
松本美樹(美濤)	95
馬淵喜兵衛	30
間部時雄 (1885~1968)	9, 56
マルゴールド, エマニュエル・ヨーゼフ (1888~1962)	134, 137
円山応挙 (1733~1795)	43, 100, 104, 105, 174
円山応震 (1790~1838)	100, 105
円山応瑞 (1766~1829)	105
円山応立 (1817~1875)	100, 105
み	
三国幽眠 (1810~1896)	226, 229
水落露石 (1872~1919)	12, 87, 220, 221, 223
水上香邨	95
水木兵太郎 (?~1939)	205
水田静広	95
水田竹圃 (1883~1958)	191
三井高明 (1856~1921)	54
三井飯山 (1881~1934)	191
皆川淇園 (1734~1807)	100
皆川月華 (1892~1987)	59, 181
宮川香山 (1842~1916)	269
三宅清次郎	180
宮武外骨 (1867~1955)	215
宮永東山(初代) (1868~1941)	46, 66, 74, 196, 201
ミュンシャ, アルフォンス (1860~1939)	7, 202, 203
三輪大次郎 (1868~1952)	163

む	
向井寛三郎 (1889~1958)	49, 126, 180
村上文芽	88
村上宇一 (1926~1943)	180, 181
村上華岳 (1888~1939)	119, 123, 125, 166, 170, 171, 173
村上嘉兵衛	231
村上勘兵衛 (1882~1978)	94
村瀬双石 (1822~1877)	100

も	
モーザー、コロマン (1868~1918)	130
望月玉泉 (1834~1913)	78, 98, 153, 196, 226, 229
望野香溪 (1845~?)	190
本野精吾 (1882~1944)	49, 126, 129, 136, 137, 176, 180, 181
本山彦一 (1853~1932)	140
靱山柏水	88
桃井英升	270
森寛斎 (1814~1894)	98, 101, 102, 105, 114, 116, 152, 153
森琴石 (1843~1921)	190
森田恒友 (1881~1933)	86, 87
森徹山 (1775~1841)	105
森雄山 (?~1917)	94
森川曾文 (1847~1902)	103, 116
守住勇魚 (1854~1927)	4, 5, 8, 24, 50, 53, 84, 152, 212
守住貫魚 (1809~1892)	24
森本東閣 (1877~1947)	168
森屋熊夫 (1862~1905)	163
森脇忠 (1888~1949)	165

や	
八木伊右衛門	232
八木伊三郎	233

八木義助	184
八木徳太郎 (1898~1925)	184
安井曾太郎 (1888~1955)	9, 121, 153, 168
安田源七	73
山内愚僊 (1866~1927)	164
山岡米華 (1869~1914)	189
山鹿清華 (1885~1981)	59, 95, 181
山県有朋 (1838~1922)	34, 38, 240
山田市次郎	45
山高信離 (1842~1907)	190
山田金之助	45
山田直三郎	45, 214
山中信天	96
山中利兵衛	76, 77
山本章夫 (1826~1903)	216, 240
山本覚馬 (1828~1892)	77, 240
山本鼎 (1882~1946)	86, 87
山本源兵衛	232
山元春挙 (1871~1933)	17, 18, 105, 116, 117, 121~124, 153, 161, 165, 231
山本笙国	223
山本雪桂	88
山本梅逸 (1783~1856)	222
山本秀夫 (?~1873)	240
山本芳翠 (1850~1906)	4
山本利兵衛	237

ゆ	
湯浅吉郎 (1858~1943)	111
湯浅久吉 (1842~1901)	106, 122
結城素明 (1875~1957)	86
湯田竹窓	95

よ	
横田重一	26
横田萬壽之助	26
横山清暉 (1792~1864)	100, 105
横山大観 (1868~1958)	114, 120, 122

横山松三郎 (1838~1884)	211
与謝蕪村 (1716~1783)	104, 188, 223
与謝野晶子 (1878~1942)	19
吉岡才之助	232
吉岡宗次郎	232
吉川雅喬	95
吉田忠七 (?~1874)	26, 148~150
吉村孝一 (?~1874)	100
吉本平兵衛	30
淀川泰介	88, 91, 95

ら

ラゲーサ (1841~1927)	4
羅溪慈本	186
ラリック、ルネ (1860~1945)	7
ランゲック	158

れ

冷泉為系 (1881~1946)	88
------------------	----

わ

ワーグナー、オットー	130
ワーグマン、チャールズ (1832~1891)	158, 160
ワグネル、ゴットフリート (1831~1892)	5, 63, 70, 155, 192, 246, 256, 264 ~271
和田英作 (1874~1959)	20, 22, 23, 165
和田三造 (1883~1967)	19
渡辺始興 (1683~1755)	110
渡邊省亭 (1851~1918)	18, 271
渡辺伝七	182
渡辺南岳 (1767~1813)	105

【事項】

*ゴシック体のページは見開きで参照のこと。

あ

アール・ヌーヴォー	2, 6 , 12, 40, 64, 66, 73, 75, 93, 196, 200, 201, 212, 213, 220, 253, 263, 268
アーレンス商会	271
アカデミー・ジュリアン	168
『浅井忠』(石井柏亭)	57
『浅井忠先生筆水彩画』(浅井忠)	10, 214
旭焼	24, 63, 264
芦手絵会	80
吾妻焼	264, 269
粟田焼	64, 66, 68, 72 , 246
アントワープ万国大博覧会	17

い

衣裳好み陳列会	18
一系会	88, 91, 95
『一草亭画譜』	220
逸品会	19
稲畑染工場	26

う

ヴァイオレット	28
ウィーン工房	130, 131
ウィーン世界博物館	155
ウィーン万国博覧会	5, 60, 62, 64, 69, 77, 148, 154 , 182, 194, 250, 264
ウィーン分離派(ゼツェッシオン)	126, 130, 131, 134
『ヴェール・サクルム』	6
写し友禅	248, 250, 252 , 254
『梅つくし』(神坂雪佳)	45
『雲霞集』(神坂雪佳)	45

芸艸堂(本田雲錦堂、山田芸艸堂)
10, 20, 23, 44, 45, 57, 78, 106, 108, 109,
214

え

絵付 12, 13, 62~65, 69
絵葉書 11, 87, 206, 210, 215
「絵葉書世界」 215
海老茶染 26

お

大津絵 12, 24, 109, 201
岡崎公園 36, 37, 165, 244, 245
岡崎公会堂 88
岡崎第一勸業館 171
音羽焼 135, 256, 259, **262**
織殿 29, 32, 52, 151, 251
織物参考館 50
織物美術 **140**, 143, 144, 146
織物美術展覧会 134, 140

か

カーキー染 26
『絵画叢誌』 82
『海路』(神坂雪佳) 40, 218
化学染料 **28**~30, 248, 250~253
化学用陶磁器 258, 260, **266**, 267
型友禪 252
『花鳥画譜』(柴田新兵衛編) 44
『花鳥画譜』(幸野樗嶺) 96
金沢工業学校 138
狩野派 42, 53, 99, 100, 105, 114, 118,
120, 188, 189
佳美会(佳都美会、佳都美村) 40, 46
『臥遊席珍』 82
ガラススライド(幻燈) **212**
川島織物 50, **52**, 57, 59
関西図案会 93, 95
関西美術院 **2**, **8**, 121, 153, 158, 161,
163, 165, 168, 169, 173, 192, 221

関西美術会 **8**~10, 13, 106, 121, 158,
161, **164**, 199, 222

関西美術会展 106, 121, 222
関西府県連合共進会(第4回) 236
関西府県連合共進会(第10回) 34
煥美協会 103

き

祇園祭 **58**, 142
戯画 7, 12, 13
機械捺染 →ローラー捺染
如月会 93, 95
着尺図案 88, 90, 93
九雲堂 **2**, **12**
『旧江戸城写真帖』 210
京薩摩 66, **68**, 72, 242
京漆園 12, 13, 24, 40, 46, 106, **112**,
181, 192, 201, 219, 237
京漆器 **236**
京染会 233
京都園芸会 34, 244
京都織物会社
26, 29~**32**, 52, 242, 246
京都画壇 53, 96, 101, 105, 114, 117,
125, 188, 190, 229, 232, 233
京都工芸繊維大学 49, 56, 85, 126,
173, 181, 199, 202, 212, 269
京都高等工芸学校 **2**, 7, 8, 11, 18,
20, 24, 25, 48, 53, 56, 65, 66, 70, 74,
83, 92, 93, 110~112, 126, 129, 133,
134, 136, 138, 153, 161, 176~181,
183, 185, 192, 197, **198**~200, 202,
205, 208, 209, 212, 221, 237, 256, 269
京都四園 113
京都色染織物繡纈共進会 157
京都市染織学校 31, 176, 198
京都漆芸会 40
京都漆工会 237
京都市展 165
京都市陶磁器試験所(京都陶磁器試験

場) 24, 65, 66, 70, 73, 74, 112, 180,
198, 256, **258**, 261~263, 267, 269

京都市美術館 175

京都市立美術工芸学校(京都市美術学
校、京都市美術工芸学校) 40, 48,
92, 99, 106, **122**, 114, 119, 122, 138,
168, 173, 186, 190, 205, 209, 237

京都市美術工芸品展 114

京都美術蒔絵学校 234

京都商品陳列所
34, 37, 126, 129, 240, 244, 245

京都市立絵画専門学校 19, 49, 92,
114, 119, **122**, 125, 168, 170, 171, 173

京都市立芸術大学 49, 98, 123, 173

『京都新聞』(京都新聞社) 80, 93

京都凶案会 **92**~95

京都凶案家協会 95

京都凶案協会 **88, 90**

京都青年絵画共進会 103, 114, 186

京都青年絵画研究会 96, **102**, 186

京都青年漆工会 237

京都染工講習所 26, 29, **30**, 198

京都陶器会社
77, 240, 242, **246**, 258, 261

京都博覧会
14, 16, 37, 50, **156**, 158, 240, 248

京都博覧会(第2回) 77, 96, 101, 240

京都博覧会(第3回) 101, 151

京都博覧会(第4回) 101, 148, 270

京都博覧会(第6回) 16

京都博覧会(第7回) 226

京都博覧会(第8回) 226

京都博覧会(第9回) 50

京都博覧会(第10回) 158

京都博覧会社(京都博覧協会)
156, 157

京都美工院 40, 46

京都美術協会 50, **54**, 80, 82, 96, 106,
117, 175, 226, 232

『京都美術協会雑誌』(京都美術)

40, 46, 55, 81, **82**, 153, 219

京都美術倶楽部 165, 223

京都美術工芸会 40, 46

京都瓢池園 60, **64**, 70, 74

京都風俗研究会 136

京都府画学校(京都市画学校) 4, 5,
24, 48, 78, 83, 96, **98**, 101, 114, 118,
121, 122, 157, 158, 160, 162, 164,
189, 190, 199, 226

京都府御用掛 52, 251

一勸業課 26, 30

京都府庁庭園 34

京都府フランス勸業留学生 52

京都府立図書館 37

京都綿ネル株式会社 254, 255

『京都洋画壇ノ今昔』(伊藤快彦) 162

『京都洋画の黎明期』(黒田重太郎)
11, 162

競美会 40, **46**, 66, 73, 106

『競美会佳都美会作品集』 47

京焼 60, 65, 66, 72~74, 76, 246, 256,
263, 266

御苑内博覧会 165

去風洞 216, 224

『去風洞社報』 224

起立工商会社 63, 77

禽獣会 157

近代建築 **128**

『近代友禅史』 230

『錦綾帖』 145

く

グラスゴー万国博覧会(1901年)
40, 122

『呉野作品集』(鶴巻鶴一) 176

け

『芸術の日本』 7

研彩会 19

『現代之凶案工芸』 137

『建築工藝叢誌』	112
『建築ト裝飾』	131
幻燈 → ガラススライド	

こ

『香』(杉林古香)	106
高榮会	18
光悦会	40, 219
『工業図式』	96
「工藝芸術原理汎論」	83
『工藝之美』	45, 214
広告意匠博覧会	245
廣誠院	65
後素協会	101, 114, 116 , 222
『皇朝千字文』	44
購入資料	202
『光風』	220
工部大学校	128
工部美術学校 2, 4, 24, 53, 162, 197	
神戸商館	72
『稿本日本帝国美術略史』	215
光琳会	110, 111
『光琳派画集』	215
『光琳百図』(酒井抱一)	43, 218, 219
『こうりん模様』(神坂雪佳)	45, 218
国画	121
国画会	171
国画創作協会 114, 121, 125, 166, 169, 170, 171, 173, 231	
国画創作協会展覧会(国展)	170, 171
国宝保存法	132
古建築保存(一法)	129, 132
互伸会	91
古代裂・名物裂	144~147
『古代模様雛形大成』	44
『國華』	82, 86, 108, 172
滑稽画	87
『滑稽新聞』	215
五二会	238 , 239, 254
五品共進会	50

ゴブラン織	50, 52
コロタイプ	133, 206, 208~210

さ

『彩画入門：初等教育』	215
『茶道要録』	216, 220
『さをしか』	20
嵯峨野会	40
薩摩焼	68, 69, 72
産業技術総合研究所	269
山南社	119

し

シカゴ・コロンブス記念万国博覧会 (1893年)	17, 50, 76, 96, 148, 200, 234, 268
『自在画教科書』	215
刺繍 → 美術刺繍	
自習園	113, 201
四条派 → 円山・四条派	
時代插花展覧会	223
時代祭	37, 142
下絵	14, 16, 17, 53, 57, 59, 96, 133, 138, 148, 179, 182, 183, 200, 205, 209, 221, 226, 228, 229, 231, 232, 270, 271
七名会	91
漆器陳列所	234
漆工競技会	237
七宝 39, 55, 70, 72, 78, 196, 201, 205, 239, 243, 262, 264, 270	
シドニー万国博覧会	226
『志満し磨』(神坂雪佳)	45
『縞とか寿り』(杉林古香)	106
黒猫会(シャ・ノール)	169, 173
ジャカード機	50, 53, 138, 144, 148, 150, 151, 155
『若冲』	215
写真 22, 59, 78, 83, 87, 109, 129, 132, 153, 158, 160, 182, 208~ 210 , 212, 213, 215	

『写真新報』	210, 211
写生(写生画)	11, 25, 42, 43, 56, 57, 84, 85, 98, 104, 118, 158, 163, 190, 203, 220, 222
『写生草花模様』(神坂雪佳)	45
ジャポニスム	60, 69, 72, 73, 200
十一会	2, 5
十牛庵	111
春鳥会	11
「小園の記」(正岡子規)	84
彰技堂	2, 4, 24, 84
聖護院洋画研究所	2, 8, 9, 161, 163
商工省工芸展覧会(商工展)	204
正倉院宝物(正倉院御物)	24, 147, 215
『小美術』	7, 43, 106, 108~110, 214, 216, 219, 220
小美術会	106, 108, 110, 216, 221
商品陳列所	34, 37, 126, 129, 198, 240, 244
松風陶器合資会社	74, 256, 259, 260, 267
松風陶歯製造株式会社	260
奨陶会	256
奨励会	66, 256
昭和工芸会	75
如雲社	96, 98, 100, 105, 114, 116, 117
『続風流懺法』(高浜虚子)	13
『植物とその装飾への応用』	203
織寶会	146
『白樺』	125, 169, 170
白木屋	19, 171
新柄流行呉服百選品陳列会	19
晨虹会	88, 90
『晨虹会図録』	91
新古美術会	157
新古美術品展(新古美術展)	55, 106, 117, 161, 181
『新作図案』	92, 93
壬申検査	132, 210
『新図案』	94

新図案会	94
晨鳥社	119
新日本画	24, 86
『真美』	181
真美会	176, 180, 181
真美協会	215
審美書院	214, 215
『審美新説』	216
『真美大観』	214, 215
『新編自在画臨本』	215
『シンプレツシムス』	86

す

図案	2~7, 12, 18, 24, 25, 40, 42~ 49, 55, 56, 59, 63, 65, 66, 73~75, 81 ~83, 85, 88, 90, 91~95, 99, 106~ 113, 122, 124, 126, 129, 131, 134~ 138, 153, 176, 179~181, 183, 192, 196, 197, 200~205, 214, 216, 218~ 220, 226, 228, 229, 231~233, 237, 243, 245, 256, 263
図案科	40, 48, 74, 83, 93, 122, 126, 129, 134, 180, 199, 200, 202, 203~205, 237
図案教育	65, 73, 74, 99, 192, 219
図案研精会	95
図案集	40, 44, 45, 106, 136, 202, 203, 214, 218
『図案聚英』	49
図案精英会	92, 106
図案団体	90, 94
図案募集	18, 92, 232, 233, 245
図案描写	202
水彩画	10, 86, 176
『水彩画帖』(浅井忠)	10
『水彩画之栞』(浅井忠)	11
『ストゥーディオ』	6
『スバル』	6
墨流し	184
摺り友禅	253

せ	
星紅会	181
青甲社	119
『制作』	166, 171
西宗	4, 98, 121, 158, 160, 162 , 164, 189
舎密局	28, 210, 246, 250, 251, 258, 264, 267, 271
舎密染	28, 29
『西洋事情』（福沢諭吉）	156, 194
西洋染法	28
清流亭	39
ゼーゲル錐	259
『世界読本』（池邊義象）	20, 23
『精神界』	220
石門心学	186
セセッション	126, 130 , 136
『セセッション図案集』	131
千家十職	223
全国絵画共進会	116, 117
全国着尺図案展覧会	88
全国窯業品共進会	60, 64, 71
染織祭	143
『染色便覧』	176
セントルイス万国博覧会	76, 122
そ	
挿花	25, 85, 220, 222, 223
挿花芸術	220~ 222
『草花百種』（幸野樗嶺）	96
『裝飾資料集』	202, 203
『裝飾の中の動物』	203
装丁	7, 108
象彦	234
染殿	28~30, 250
染物業集談会	30
た	
大日本窯業協会	60, 64, 70

『大日本窯業協会雑誌』	71
太平洋画会	86
大丸(大丸呉服店)	19, 129, 176, 179, 228
『太陽』	220
対龍山荘	39
大礼記念京都美術館	175, 245
大礼磁	256, 259
高島屋	14, 16 ~19, 47, 59, 88, 90, 114, 134, 138, 144, 147, 176, 179, 180, 182, 183, 186, 219, 231, 232
高島屋飯田新七東店	14, 17
高山耕山化学陶器株式会社	266
ダグレオタイプ	210
龍村商店	146
龍村製織所	138, 144~146
丹青会	91

ち

千切屋(千總)	182, 183, 185, 226~ 228 ~231, 248, 250
『ちぐさ』（神坂雪佳）	45
千種苑	181
竹杖会	114, 118
『茶話』（薄田泣菫）	225
『蝶千種』（神坂雪佳）	40, 45, 218
《朝妝》	37, 160, 164, 195

つ

『通俗世界文学』	220
『月瀬紀行 薫世界』	20, 23, 25
綴織	2, 50, 52, 53, 56, 57, 59, 124
綴錦	14, 50

て

帝国京都博物館(現・京都国立博物館)	34, 128, 175, 190
帝国奈良博物館(現・奈良国立博物館)	175
帝国美術院	114, 186

帝国美術院美術展覧会(帝展)
124, 125, 171
帝室技芸員 50, 73, 96, 114, 148, **152**,
186, 210, 215, 218, 243, 271
帝室博物館(現・東京国立博物館) 147

と

『とうか会』 106
東京絵付 63
東京工業学校 70, 256
東京高等工業学校 204
東京高等工芸学校 262
東京都美術館 175
東京美術学校 2, 5, 86, 105, 106,
120, 123, 138, 153, 165, 172, 173,
188, 197, 199, 211, 225
同志社ハリス理化学校 258
東宗 98, 162, 189
『当世風俗五十番歌合』 20, 23
『東洋美術』 166, 173
『東洋美術大観』 214
道楽園 113, 176, **180**, 183, 192, 201
常盤木倶楽部 93
『特別保護建造物及国宝帖』 215
土佐派 100, 118
トリノ市装飾博覧会(1902年) 122

な

内国絵画共進会 102
内国勸業博覧会 14, 55, 82, 192, **194**
内国勸業博覧会(第1回)
121, 158, 194, 226, 271
内国勸業博覧会(第2回)
121, 158, 174, 188, 194
内国勸業博覧会(第3回)
50, 54, 96, 121, 148, 194
内国勸業博覧会(第4回) **36**, 50,
53, 59, 80, 121, 133, 148, 157, 160,
164, 175, 181, 195, 211, 237, 239, 240
内国勸業博覧会(第5回)

50, 121, 176, 195, 231, 254
浪速写真倶楽部 211
南画(文人画) 2, 96, 98, 100, 104, 121,
158, 172, 179, 186, **188**~191, 220
南宗 98, 162, 188~190
『南宗画苑』 191
『南宗画志』 191

に

二科会 9, 125
西陣織 17, 50, 52, 59, 148, **150**, 156,
181, 198
西陣織物産会社(西陣物産会社、西陣
物産引立会社) 150
日英博覧会 231
『日本』(陸羯南) 22, 84, 85
日本織物新聞社 88
日本画 5, 7~10, 14, 24, 25, 43, 46,
53, 63, 74, 96, 105, 112, 119, **120**,
121, 124, 143, 153, 158, 160~162,
164~166, 168~171, 176, 188, 192,
196, 197, 199, 226, 228, 229, 264, 271
『日本工藝名鑑』 180
日本漆工会 237
日本水彩画研究所 11
日本製布株式会社 254
『日本制度通』(池邊義象) 20
日本セラミック協会 70
日本陶器株式会社 63
日本南画院 191
日本南画会 189
日本南画協会 186, **190**
日本南宗画会 189
『日本美術』 86
日本美術院 120, 125
日本美術協会 152
日本仏教真美協会 214
『日本文学全書』 20
『日本法制史』(池邊義象) 20

ぬ・ね

鶴派 114, 120
ネオグロテスク 137

の

農商務省 50, 52, 124, 132, 176, 194,
197, 205, 215, 238, 244
農商務省主催図案及応用作品展覧会
(農展) 124, 135, 176, **204**, 234, 263,
183, 192
農商務省商品陳列館 75, 112, 113
農展式 →マルホフ式

は

俳句 84, 85, 87
『**煤嶺画譜 花鳥虫之部**』(幸野煤嶺)
44
白馬会 2, 87
白美会 19
箸尾刺繍伝習所 183
八王子織物染色講習所 251
二十日会 158
バツタン 150, 151
発明権保護協会 138
バティック 176, 178
花くらべ 18
波紋染 176, 184, 185
「**巴里消息**」(浅井忠) 12, 84
パリ万国博覧会(1867年) 238
パリ万国博覧会(1878年) 243
パリ万国博覧会(1889年)
14, 17, 50, 76, 268
パリ万国博覧会(1900年) 2, 6,
22, 50, 60, 64, 66, 76, 83, 114, 117, 118,
122, **196**, 198, 200, 201, 213, 215, 231,
243, 268
バルセロナ万国博覧会(1888年) 17
版画(創作版画) 86, 87
蕃書調所 160

ひ

雛形 44, 154
東山春秋展観 100
東山書画展 100
美工商社 **76**
美術織物 50, 148, 234, 242
『**美術海**』 214
美術史学 166, **172**
美術刺繍 14, 16, 17, 59, 76, 180~**182**,
205, 239
美術出版 44, **214**
美術商 6, 76, 77
美術真説 102, 120
『**美術新報**』 86, 135
『**美術叢誌**』 103
『**日出新聞**』 78, **80**, 88, 106, 111, 112,
174, 182, 211, 216
百選会 **18**, 134, 135, 219
『**百選会百回史**』 134
『**百華新聞**』 144
『**表現派図案集**』 **136**
瓢池園 60, **62**, 64
瓢池園(京都) →京都瓢池園
ビロード友禪(天鷲絨友禪)
14, 17, 226, **230**
琵琶湖疏水 34, 36~39, 59, 163

ふ

フィラデルフィア万国博覧会
194, 226, 243
風刺画 87
ふくべ焼 63, 64
『**武士山狩図**』 2, 50, **56**, 124, 221
『**蕪村句集**』 223
『**仏国風俗問答**』 23
不同舎 84, 87
『**文化**』 166
文化史学 225
文人画 →南画

文人趣味 24

文展 → 文部省美術展覧会

へ

平安神宮 34, 36, 128, 142, 175, 195

『平安人物志』 104

平安遷都千百年記念祭 36, 80, 195

『瓶史』 216, 219, 224

『平旦』 220

碧雲荘 34, 39

便化 43, 203

便利堂 133, 206, 208, 209

ほ

『方寸』 6, 86

法隆寺金堂壁画複製制作
133, 206, 208

『北斎漫画』 7

北宗 96, 99, 114, 162, 189

ポスター 7, 196, 202

『坊ちゃん』(夏目漱石) 84

『ほととぎす』
12, 84, 108, 216, 220, 221

ま

マジョリカ 135, 262, 263

マゼンタ 28

松坂屋 19

マドレー染 185

丸紅商店 90, 91

マルホフ式 75, 134, 136, 205

『團圓珍聞』 80

円山・四条派 40, 96, 98, 100, 104,
114, 118, 119, 124, 190, 223

円山公園 34

円山正阿弥 101

み

三井呉服店 228

『みづゑ』 11, 86

三越 19

蓑虫工芸 180

『都の魁』 211

都をどり 156

『明星』 6

む

無線七宝 262, 271

無線友禅 181

無名会 95

無名会 168

無隣庵 34, 38

め

『名家歴訪録』 78, 81, 211, 234

明治画学館 158, 163

明治美術会 2, 5, 8, 11, 165, 211

『めさまし草』 220

も

朦朧体 120

モーヴ 28

『木魚遺響』 20, 22, 56

黙語会 20

『黙語図案集』(浅井忠) 197, 201, 214

『黙語西洋画集』(浅井忠) 214

『黙語日本画集』(浅井忠) 214

モスリン(毛斯綸) 135, 248, 254

毛斯綸紡織株式会社 26

『元信画集』 215

『百々世草』(神坂雪佳) 40, 45, 214

森村組 63

文部省博覧会(1872年) 154, 156, 194

文部省美術展覧会(文展) 9, 57, 87,
114, 117, 121~124, 161, 170, 171, 175,
191, 192, 204

や

山本読書塾 216

ゆ	
釉下彩	65, 264, 268
『ユージェント』	6, 86
友禅協会	94, 232
友禅下絵	96
友仙図案	93
友禅図案会	94, 232, 233
友禅染	17, 94, 178, 180, 181, 198, 226, 228, 230, 232, 233, 248~255
ゆふつ社	211
遊陶園	12, 13, 24, 40, 46, 60, 65, 66, 73, 74 , 112, 113, 135, 181, 192, 201, 223, 256
釉薬	60, 65, 75, 256, 258, 259, 262, 264, 268, 269, 271
輸出工芸	55, 76, 153, 242
よ	
洋画	2, 4, 5, 8~10, 13, 49, 56, 84, 86, 92, 93, 98, 105, 108, 112, 118, 120, 121, 124, 125, 153, 158, 160 ~165, 168, 169, 171, 173, 183, 189, 192, 199, 202, 214
窯工会	60, 70
『欧羅巴』(池邊義象)	20, 23
『吉野紀行 錦世界』(池邊義象)	23
り	
リエージュ万国博覧会	50

流行会	19
流行品ア・ラ・モード陳列会	19
龍池会	102, 153, 188
リヨン織物学校	52
リヨン大博覧会	17
臨時全国宝物取調局	132
琳派	7, 12, 24, 40, 42 , 66, 73, 75, 186, 201, 218, 219
琳派顕彰	218
る	
仮面会(ル・マスク)	169, 173
『ルヴェ・ブランシュ』	6
れ	
歴史画	138, 195
煉真舎	210, 211
ろ	
蘭縵	176, 178 , 184
ローラー捺染	254
ローケツ染め	178, 179
ロンドン万国博覧会	17
わ	
若菜会	20
『吾輩は猫である』(夏目漱石)	84
和楽庵(現・何有荘)	34, 39, 110